

神奈川県金融経済概況（2014年10月）

I. 概況

神奈川県の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は残っているものの、基調的には緩やかに回復している。

すなわち、企業部門をみると、生産は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から落ち込んだ後、緩やかながら持ち直しつつある。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は持ち直している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は、弱めの動きもみられるが、労働需給面では持ち直している。個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は薄らいでおり、基調的には底堅く推移している。この間、住宅投資は駆け込み需要の反動減が続いている。公共投資は底堅く推移している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産：消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から落ち込んだ後、緩やかながら持ち直しつつある。

- ・ 輸送機械は、駆け込み需要の反動の影響が徐々に薄らいでおり、下げ止まっている。
- ・ 素材関連は、自動車向け素材は持ち直しつつあるものの、住宅向け素材が減少しており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、自動車向けや機械向けが増加しているものの、情報通信機械に弱めの動きがみられており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置や工作機械を中心に、緩やかに増加している。

(2) 輸出： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 一部の新興国において弱めの動きがみられており、全体としてみれば横ばい圏内の動きとなっている。

(3) 設備投資： 持ち直している。

- ・ 9月短観における、14年度の設備投資計画をみると、一部では投資を先送りする先もみられるものの、投資計画に大きな変化はなく、製造業では能増投資や維持・更新投資が計画されているほか、非製造業では新拠点・新店舗の設置などが計画されており、引き続き増加が見込まれている。

(4) 雇用・家計所得環境： 弱めの動きもみられるが、労働需給面では持ち直している。

- ・ 8月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.02倍と、前月（1.03倍）の水準を僅かながら下回った。

(5) 個人消費： 消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は薄らいであり、基調的には底堅く推移している。

- ・ 百貨店売上高は、秋物衣料の販売が堅調で、持ち直している。
- ・ スーパー売上高は、持ち直している。
- ・ 家電販売額は、高付加価値・高価格帯商品の販売が好調であり、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 新車登録台数は、駆け込み需要の反動により前年比ベースではマイナスとなっているが、季調済台数ベースでは持ち直している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況をみると、来客数が増加しているほか、県内ホテル・旅館の稼働状況も高水準で推移している。

(6) 住宅投資： 駆け込み需要の反動減が続いている。

- ・ 住宅着工戸数は減少している。

(7) 公共投資： 底堅く推移している。

- ・ 9月の公共工事請負額は、前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、不動産・住宅関連向けの伸びが続いているほか、中小企業向け貸出に動意がみられており、引き続き増加している（貸出金末残前年比： 7月+0.9%→8月+0.9%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利前月差： 7月▲0.012%→8月▲0.005%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金は、高いウエイトを占める個人預金が順調に増加していることなどから、引き続き増加している（実質預金末残前年比： 7月+2.1%→8月+2.6%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。